

JTEKT-SignalHop



JTEKT-SignalHop T (送信機)



JTEKT-SignalHop R (受信機)



装着例

従来、既存設備の稼働状況の見える化には、設備の信号調査、電気回路の変更と情報を集約する機器まで配線工事を必要とした。

本製品 (SignalHop 送信機、受信機) では、設備の状態ランプに貼付けるだけで、情報は無線で送られ配線工事不要となる。

設計レス、工事レスで「見える化」が実現できる。

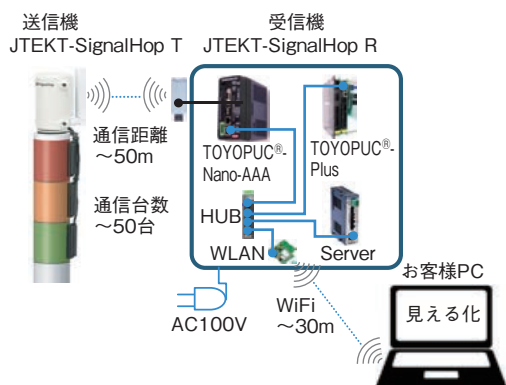
ねらい

- 稼働状況を「置きポン」で見える化 (最大 50 台)
- 「稼働状況の見える化」をコストミニマムで導入可能。
- すぐに運用でき、運用⇒改善のリードタイムを短縮、設備の可動率も向上。

特長

- ①さまざまなメーカーの状態ランプに対応 (貼付けのみ)
- ②工場環境に対応 (保護等級 IP55)
- ③電池駆動 (単三×2本)
交換目安: 約1年 (予報機能あり)
- ④アンドン表示
 - ・ 設備状態
 - ・ 運転, 異常の累積時間
 - ・ 異常回数
- ⑤稼働の時系列モニタ
各設備の過去の稼働状況を時系列で確認
- ⑥データ収集 (約 200 日分の稼働状況を保存)
 - ・ 運転, 異常時間
 - ・ 設備稼働状況 (1分周期)

システム構成

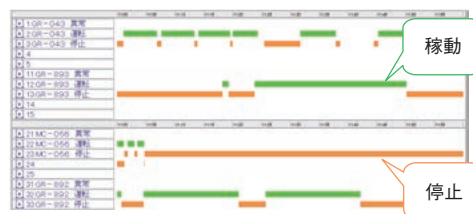


見える化画面

- ・ 異常停止回数, 異常時間, 運転時間の表示が可能



- ・ 時系列での稼働状況



A社 導入事例

- ①機械の稼働状況が一目で分かるようになった。
- ②通常停止なのか異常停止なのかをメンテナンス担当者が自主的に確認するようになった。
- ③異常な停止が管理者に早く伝わり、平均修復時間 (MTTR) が短縮した。
- ④生産計画作成者と現場作業者との間で意思疎通が不一致となる理由が明確になった。
- ⑤機械の稼働データを分析することにより、不良品発生率が低減し、計画保全も可能となった。
- ⑥社員の意識および社内の空気が協働へと変わりつつある (波及効果)。
(工作機械・メカトロ事業本部 ラインコントロール技術部)